人文社会ビジネス科学学術院

人文社会科学研究群
履修ガイド

人文学学位プログラム

国際公共政策学位プログラム

国際日本研究学位プログラム

2022 年度

はじめに

「履修ガイド」は、2020 年 4 月から筑波大学大学院が学位プログラム化したことに伴い、履修方法等がこれまでと大きく変わったところがあるために作成したものです。ご活用いただければ幸いです。

なお、「履修ガイド」には、『大学院便覧』や『大学院スタンダード』と記載が重複しているところもありますので、それらもあわせてご参照ください。

ご不明の点は、指導教員や学位（サブ）プログラム事務室、人文社会エリア支援室大学院教務担当までお問い合わせください。

皆さんが、人文社会科学研究群で、志した学問を究め、将来の夢に向かって進めるよう、励んでください。

目次

1.　人文社会科学の大学院教育の重要性 3
2.　人文社会ビジネス科学学術院 4
3.　学位プログラム 5
4.　人文社会科学研究群 6
（1）　人文学学位プログラム（区分制博士課程） 6
（2）　国際公共政策学位プログラム（区分制博士課程） 7
（3）　国際日本研究学位プログラム（区分制博士課程） 7
5.　人文社会科学研究群の教育課程 7
（1）　大学院共通科目 9
（2）　学術院共通専門基盤科目 12
（3）　研究群共通科目 13
（4）　コンピテンス達成度の評価 14
（5）　哲学・思想サブプログラム（前期課程） 24
（6）　歴史・人類学サブプログラム（前期課程） 26
（7）　文学サブプログラム（前期課程） 28
（8）　言語学サブプログラム（前期課程） 30
（9）　現代文化学サブプログラム（前期課程） 32
（10）　英語教育学サブプログラム（前期課程） 34
（11）　国際公共政策学位プログラム（前期課程） 36
（12）　公共経営履修モデル（国際公共政策学位プログラム） 38
（13）　国際日本研究学位プログラム（前期課程） 39
（14）　日本語教師養成プログラム 42
（15）　哲学・思想サブプログラム（後期課程） 44
（16）　歴史・人類学サブプログラム（後期課程） 46
（17）　文学サブプログラム（後期課程） 48
（18）　言語学サブプログラム（後期課程） 50
（19）　現代文化学サブプログラム（後期課程） 52
（20）　英語教育学サブプログラム（後期課程） 54
（21）　国際公共政策学位プログラム（後期課程） 56
（22）　国際日本研究学位プログラム（後期課程） 58
（23）　研究群の英語プログラム（国際公共政策学位プログラム） 60
6.　修士論文・博士論文について 62
（1）　研究不正と研究倫理 62
（2）　博士論文のインターネット公表 62

1. 人文社会科学の大学院教育の重要性

冷戦の終焉と経済のグローバル化によって、世界中に自由と民主主義の理念が行き渡り、平和と繁栄がもたらされる、というのはただの幻想にすぎませんでした。自由や民主主義という価値を共有しない国家は依然として存在し、民族紛争や内戦、テロ、政治的抑圧が止むことはなく、富裕層と貧困層との格差は広がり、地球規模の環境破壊が生じていても国家の利益が追求され、難民・移民や少数者に対する差別・不寛容が蔓延し、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）はつながりを生む一方でエコーチェンバー化する――私たちの眼前に広がる光景は、さまざまな社会的・文化的な諸問題が、複雑に絡まりながら、今なお増え続けているという現実です。

「人文社会科学は役に立たない」といわれていますが、これらの諸問題の根底にあるのは、人間とは何か、人間の本性とは何か、人間と人間の関係はどのようにあるべきなのかといった問いです。もちろんこれらの問いは、一朝一夕に答えを出せるわけではありません。しかし人類の来し方行く末を考える人文社会科学こそ、これらの問いを考えるのに相応しい学問であることは間違いありません。

もっとも、人類が抱える諸問題のなかには、近い将来、人工知能（AI）研究やビッグデータ解析によって解決されるものもあるかもしれません。10 年後を見通して日本政府が策定した「第 5 期科学技術基本計画」（2016～2020 年度）は、仮想空間と現実空間を高度に融合させ、科学技術イノベーションによって経済発展と社会的課題の解決を両立させる「超スマート社会」の実現を未来の目標とし、その実現に向けた一連の取り組みを「Society 5.0」として推進していくことを謳っています。「Society 5.0」では、仮想空間および現実空間で生じる多種・多次元のビッグデータを AI によって解析し、その結果を、ロボットなどによって人間にフィードバックし、新たな価値を産業や社会にもたらすことが期待されています。

しかし人間にとって有益な社会変革を実現するには、AI やロボットなど科学技術の高度化だけでは不十分です。高度な科学技術が、哲学・倫理学・言語学・法学・国際公共政策学などの人文社会科学と融合されてはじめて、社会イノベーションを生み出すことができるといっても過言ではありません。

前述の「第 5 期科学技術基本計画」は、科学技術イノベーションを支える人材を生み出すには大学院教育が重要だと指摘しています。これからの人文社会科学の大学院教育では、広い視野による情報の把握・判断、抽象的な概念の整理・創出、異文化の者を含む他者の理解・説得・交渉などを修得することが期待されています。

2. 人文社会ビジネス科学学術院

本学は、今日まで、幅広い学問分野にわたる専門性の深化とともに、学際的・分野横断的な教育を積極的に展開して社会の要請に応えようという理念をもって大学院教育の充実に取り組んできました。

1973 年の開学当初から「新構想」の一つとして「大学院の重視」を掲げ、独創的な研究能力を備えた研究者の養成を目的とする 5 年一貫制の博士課程と、専門性の高い職業人の養成や社会人の再教育を目的とする修士課程を並列的に設置しました。その後、大学院を一層重視した教育研究体制とするため、2000 年から 2001 年にかけて、20 の博士課程研究科を 6 つの大研究科に改組再編する改革を行いました。このときに人文系および社会科学系の研究科も統合・再編し、人文社会科学研究科が誕生しました。

2004 年の国立大学法人化後、本学は、高度化・多様化する社会や学生のニーズに対応するため、一貫制博士課程から区分制博士課程への転換、修士課程研究科から博士前期課程への移行、専門職大学院の設置、新たな方式による連携大学院の設置、新領域における専攻の設置など、人材養成上の目的や分野の特性に応じて多様な専攻編成を可能とする方向で大学院教育の充実・強化を図ってきました。

また大学院教育の実質化を図るべく、授与する学位ごとに**ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）**、**カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）**、**アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）**を明確にして「大学院スタンダード」として公表し（2014 年）、これに沿って教育課程を編成してきました。

2020 年度から大学院を**学位プログラム制に全面移行**することとなり、**学内の幅広い学問分野の教員が、所属組織（研究組織）の枠を越えて協働し、学位プログラムを展開することができる教育体制を構築**することとなりました。そこで、学生の教育と教員の研究を一体的に行う「研究科」とは異なり、**教員の所属組織とは独立した教育組織**として**「学術院」**を設けることになりました。本学では、「人間の集合体である社会を探求する」、「科学技術の根本原理を解き明かす」、「学際的・総合的な視点で人間研究を行う」という 3 つのコンセプトによって、**「人文社会ビジネス科学学術院」**、**「理工情報生命学術院」**、**「人間総合科学学術院」**の 3 つの学術院が置かれます。

「人文社会ビジネス科学学術院」は、主に学部（学群）からそのまま進学して研究者となる者を養成する大学院教育を実践してきた人文社会科学研究科が、社会人のための夜間大学院のパイオニアとして実績を上げてきたビジネス科学研究科と同じ学術院を構成することで、**研究群間での学際的な分野への研究協力、研究指導を可能にしようとする**ものです。本学術院は、人文学、社会科学、ビジネス科学に関する多面的かつ高度な教育研究を通じて、人間の価値や人と社会のあり方を時間軸、空間軸

を交差させて総合的に探究することによって、新たな知を創造し具現化できる研究者、大学教員、専門的な職業人を養成することを目的としています。**本学術院には、「人文社会科学研究群」と「ビジネス科学研究群」、それに専門職大学院が置かれています**。

3. 学位プログラム

「学位プログラム」とは、大学や大学院などにおいて、**学生に学士・修士・博士などの学位を取得させるにあたり、当該学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を明示し、それを修得させるように体系的に設計した教育プログラム**のことです。

各学位プログラムは、教育の質を保証するため、博士前期課程と博士後期課程のそれぞれのレベルに応じて、授与する**「学位」**と**「人材養成目的」**を設定し、**「汎用コンピテンス」**と**「専門コンピテンス」（学位プログラムコンピテンス）**を**ディプロマ・ポリシー**として明示し、その達成に向けた教育プログラムの編成方針、学修の方法・プロセス、評価の観点・方法を**カリキュラム・ポリシー**として定めて体系的に教育を実施し、**アドミッション・ポリシー**も明確にします。**1 つの学位プログラムが授与する学位は 1 種類だけ**です。学生は、各学位プログラムにおける学修を通じて、汎用コンピテンスおよび専門コンピテンスを修得します。**「コンピテンス」**とは、**学位授与時に学生が備えているべき知識・能力等**のことです。

これまで日本の大学や大学院では、「学生の所属する組織」、「教員が所属する組織」、および「提供される教育プログラム」が一対一の関係にありました。大学院では、その基本単位は「専攻」でした。そのため社会の変化や研究・教育の必要性によって新たな教育プログラムを編成しようとしても、「専攻」の壁によって機動的に行うことができませんでした。

本学では、学位に対応する教育プログラム（「学位プログラム」）を編成する一方、「学生の所属する教育組織」（本学では「学術院・研究群」）と「教員が所属する教員組織」（本学では「系」）とを分離しました。教員は、学位プログラムではなく、研究群の専任教員と位置づけられることになりますので、今後は、社会の変化等に応じて、新しい学位プログラムをつくったり、ニーズのなくなった学位プログラムを再編したりすることが容易になります。また主担当の学位プログラム以外に、副担当として他の学位プログラムの授業および研究指導を担当できますので、専任教員が各々の専門性を活かして学位プログラムを越えて協働し、学生の指導に当たることができるようになります。

4. 人文社会科学研究群

「人文社会科学研究群」は、人や社会の営み、人と社会の関係の考察・分析に係わる人文社会科学の基礎研究において優れた能力を有し、学問の進展や社会的要請の変化に応じて人類の知の継承に貢献し得る人材、またグローバル化の進展に伴う地球規模の課題や社会的課題に果敢に挑戦し、人間の存在や人と社会との関係の望ましいあり方を構想しうる独創性と柔軟性をあわせもつ研究者・教育者、および高い専門性と実務能力を有する職業人を養成することを目的としています。

本研究群には、次の **3 つの学位プログラム**があります（表 1 参照）。

表 1　学位プログラムと授与する学位

学位プログラム	授与する学位
人文学学位プログラム	修士（文学）〔Master of Arts in Humanities〕 博士（文学）〔Doctor of Philosophy in Humanities〕
国際公共政策学位プログラム	修士（国際公共政策）〔Master of Arts in International Public Policy〕 博士（国際公共政策）〔Doctor of Philosophy in International Public Policy〕
国際日本研究学位プログラム	修士（国際日本研究）〔Master of Arts in International and Advanced Japanese Studies〕 博士（国際日本研究）〔Doctor of Philosophy in International and Advanced Japanese Studies〕

(1) 人文学学位プログラム（区分制博士課程）

「人文学学位プログラム」は、人文学を取り巻く環境の変化やグローバル化に伴う社会の変化に対応するため、哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、文学、言語学、文化学、英語教育学などの人文学諸分野における優れた専門的知識を身につけるとともに、地球規模の新たな問題の発見と解決をめざし、専門の異なる人々と共同して問題解決に貢献できる人材を育成することを目的としています。

人文学学位プログラムは、従来の一貫制博士課程の哲学・思想専攻、歴史・人類

学専攻、文芸・言語専攻、および区分制博士課程の現代語・現代文化専攻を統合し、**哲学・思想、歴史・人類学、文学、言語学、現代文化学、英語教育学の 6 つのサブプログラム**が存在していますが、それらを横断的・融合的に人文学として構築しようとするものです。

授与される学位は、**修士（文学）・博士（文学）**です。

(2) 国際公共政策学位プログラム（区分制博士課程）

「国際公共政策学位プログラム」は、国際関係論や地域研究、社会学、政治学、経済学、人類学、公共政策学など国際公共政策に関わる各分野の高度の専門性と、それらを横断する学際性とを備えた教育と研究指導を通じて、専門知識を基盤とし、グローバル化、複雑化する現代の国際問題や個別地域の諸問題、また社会・文化問題へと柔軟に適用できる研究能力と、それらを公共政策へと導く実践的問題解決能力を身につけた人材を育成することを目的としています。

国際公共政策学位プログラムは、従来の区分制博士課程の国際公共政策専攻、および修士課程の国際地域研究専攻を統合し、各研究分野の専門性を結集し、学際的融合に基づく公共政策志向の教育を行おうとするものです。

授与される学位は、**修士（国際公共政策）・博士（国際公共政策）**です。

(3) 国際日本研究学位プログラム（区分制博士課程）

「国際日本研究学位プログラム」は、人文科学、社会科学、日本語教育学の専門的かつ国際的な学識を身につけ、グローバル化する現代社会の中で国際的・学際的・比較的な視野のもとで日本の文化・社会について研究し、海外にも発信していける人材を育成することを目的としています。

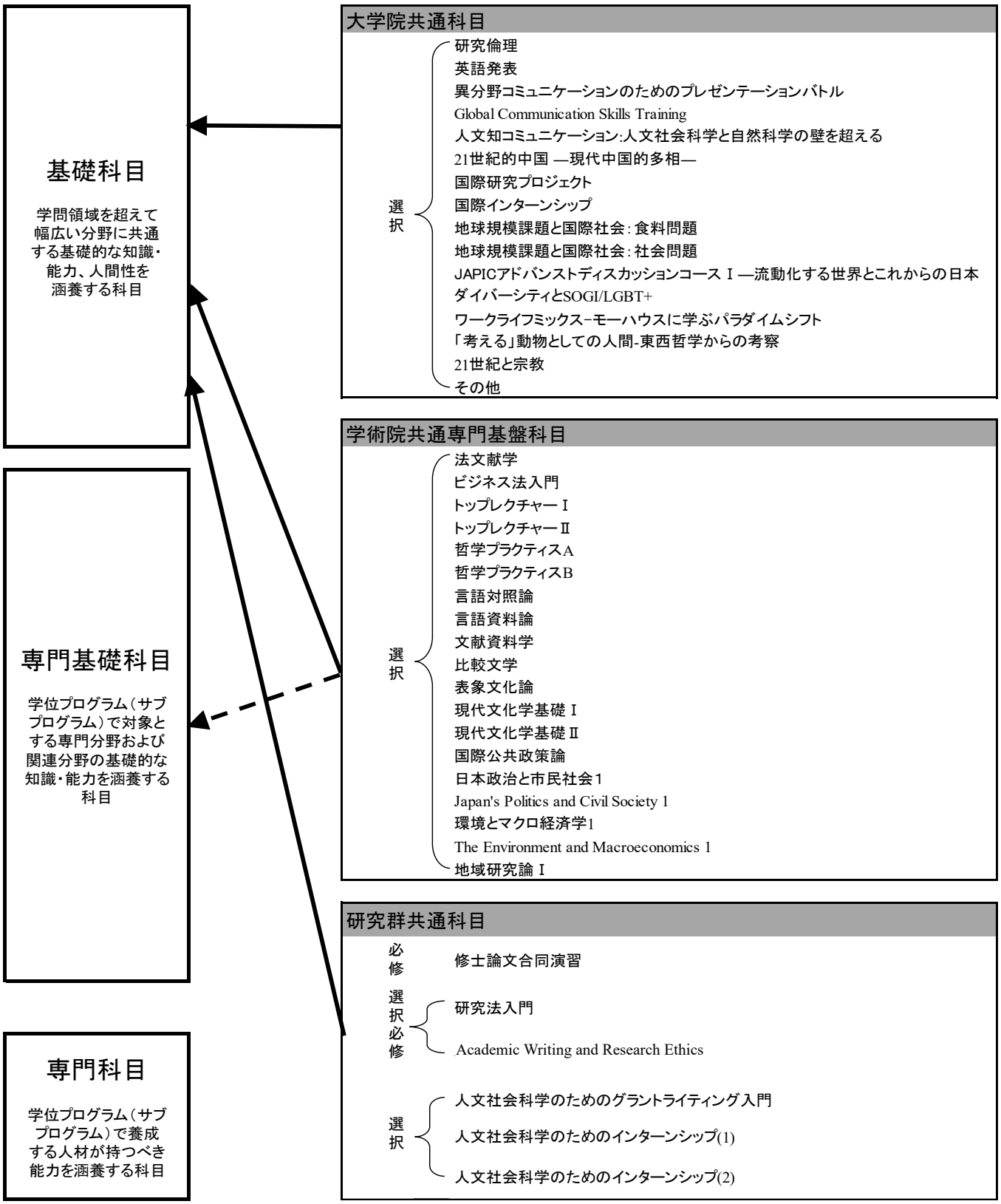
国際日本研究学位プログラムは、人文科学と社会科学の分野融合型・領域横断型の体系的な日本研究を行う区分制博士課程の国際日本研究専攻を母体としています。

授与される学位は、**修士（国際日本研究）・博士（国際日本研究）**です。

5. 人文社会科学研究群の教育課程

本研究群は、各学位プログラムの博士前期課程において、授業科目を、**基礎科目**、**専門基礎科目**、**専門科目**に区分し、**基礎的なものから専門的なものへと系統的に配置**して、学生の履修に資するように編成しています（図 1 参照）。

図 1　人文社会科学研究群（博士前期課程）の科目体系



基礎科目は、**学問領域を超えて幅広い分野に共通する基礎的な知識・能力、人間性を涵養する科目**であり、大学院共通科目、学術院専門基盤科目、研究群共通科目などから構成されています。

専門基礎科目は、学位プログラムで対象とする**専門分野および関連分野の基礎的な知識・能力を涵養する科目**です。

専門科目は、**学位プログラムで養成する人材が持つべき能力を涵養する科目**です。

博士後期課程は、**博士論文完成のための研究指導**を行いますが、**最先端の知識と思考力を修得させるために必要な専門科目を配置**しています。また博士後期課程でも、**大学院共通科目などを履修できる**ようにしています。

(1)大学院共通科目

本学では、大学院学生の高度な質と能力を担保し、個人の総合的能力を向上させること、すなわち「人間力」の醸成を目的として、平成 20 年度から「大学院共通科目」を開設してきました。大学院共通科目は、**生命・環境・研究倫理科目群**、**情報伝達力・コミュニケーション力養成科目群**、**国際性養成科目群**、**キャリアマネジメント科目群**、**知的基盤形成科目群**、**身心基盤形成科目群**から構成されています(表 2 参照)。

生命・環境・研究倫理科目群:研究者・高度専門職業人として求められる研究倫理、医療倫理、生命倫理、環境倫理等に関する科目群

情報伝達力・コミュニケーション力養成科目群:研究成果を積極的に分かりやすく伝える力やプレゼンテーション能力の向上等に資する科目群

国際性養成科目群:グローバル化時代の人材にふさわしい国際性を涵養する科目群。国際研究プロジェクトや国際インターンシップに係る渡航費支援を含む。

キャリアマネジメント科目群:大学院修了後の進路に関する考え方や基礎的能力を涵養する科目群

知的基盤形成科目群:自らの研究分野以外の幅広い知識・教養を涵養する科目群

身心基盤形成科目群:健やかな身体、豊かな心、逞しい精神の自己修養力向上を図る科目群

「汎用コンピテンス」は、「大学院共通科目」の履修などを通じて身につけることになりますので、積極的に「大学院共通科目」を履修してください。

表 2　大学院共通科目

	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
生命・環境・研究倫理科目群	応用倫理	1･2後		1		○		
	環境倫理学概論	1･2後		1		○		
	研究倫理	1･2前		1		○		
	生命倫理学	1･2前		1		○		
	企業と技術者の倫理	1･2前		1		○		
情報伝達力・コミュニケーション力養成科目群	テクニカルコミュニケーション	1･2前		1		○		
	英語発表	1･2前		1		○		
	異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	1･2通		2			○	
	Global Communication Skills Training	1･2前		1			○	
	サイエンスコミュニケーション概論	1･2前		1		○		
	サイエンスコミュニケーション特論	1･2後		1		○		
	サイエンスコミュニケータ養成実践講座	1･2休		2				○
	人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える	1･2後		1		○		
国際性養成科目群	21世紀的中国 ―現代中国的多相―	1･2後		1		○		
	国際研究プロジェクト	1･2通		1				○
	国際インターンシップ	1･2通		1				○
	地球規模課題と国際社会:食料問題	1･2後		1		○		
	地球規模課題と国際社会:海洋環境変動と生命	1･2後		1		○		
	地球規模課題と国際社会:社会脳	1･2休		1		○		
	地球規模課題と国際社会：感染症・保健医療問題	1･2後		1		○		
	地球規模課題と国際社会：社会問題	1･2後		1		○		
	地球規模課題と国際社会：環境汚染と健康影響	1･2後		1		○		
	地球規模課題と国際社会：環境・エネルギー	1･2休		1		○		

キャリアマネジメント科目群	JAPICｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝｺｰｽI-流動化する世界とこれからの日本	1･2後		1			○	
	JAPICｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝｺｰｽIII-ﾃｸﾉﾛｼﾞｰとｸﾞﾛｰﾊﾞﾙで拓く未来	1･2前		1			○	
	ダイバーシティとSOGI/LGBT+	1･2休		1			○	
	ワークライフミックス - モーハウスに学ぶパラダイムシフト	1･2前		1		○		
	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	1･2休		1				○
	アクセシビリティリーダー特論	1･2前		1		○		
	脳の多様性とセルフマネジメント	1･2休		1		○		
知的基盤形成科目群	生物多様性と地球環境	1･2前		1		○		
	内部共生と生物進化	1･2前		1		○		
	海洋生物の世界と海洋環境講座	1･2休		1				○
	科学的発見と創造性	1･2前		1		○		
	自然災害にどう向き合うか	1･2前		1		○		
	「考える」動物としての人間-東西哲学からの考察	1･2休		1		○		
	21世紀と宗教	1･2前		1		○		
身心基盤形成科目群	塑造実習	1･2後		1				○
	コミュニケーションアート&デザインA	1･2前		1		○		
	コミュニケーションアート&デザインB	1･2後		1		○		
	日本画実習	1･2前		1				○
	ヨーガコース	1･2前		1				○
	絵画実習A	1･2前		1				○
	現代アート入門	1･2前		1		○		
	大学院体育Ia	1･2通		1				○
	大学院体育Ib	1･2前		1				○
	大学院体育Ic	1･2後		1				○
	大学院体育IIa	1･2通		1				○
	大学院体育IIb	1･2前		1				○
	大学院体育IIc	1･2後		1				○
	大学院体育IIIa	1･2通		1				○
	大学院体育IIIb	1･2前		1				○
	大学院体育IIIc	1･2後		1				○
	大学院体育IVa	1･2通		1				○
	大学院体育IVb	1･2前		1				○
	大学院体育IVc	1･2後		1				○
	大学院体育Va	1･2通		1				○
	大学院体育Vb	1･2前		1				○
	大学院体育Vc	1･2後		1				○

⑵学術院共通専門基盤科目

学術院には、**学生の専攻分野に関連する分野の基礎的素養、広い視野や俯瞰力を涵養する**ことを目的として、**「学術院共通専門基盤科目」**が開設されています（表 3 参照）。

表 3　学術院共通専門基盤科目

授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
		必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
法文献学	1･2前		1		○		
ビジネス法入門	1･2後		1		○		
トップレクチャーⅠ	1･2休		1		○		
トップレクチャーⅡ	1･2休		1		○		
哲学プラクティスA	1前		1			○	
哲学プラクティスB	1後		1			○	
言語対照論	1･2後		1		○		
言語資料論	1･2後		1		○		
文献資料学	1･2前		1		○		
比較文学	1･2前		1		○		
表象文化論	1･2後		1		○		
現代文化学基礎Ⅰ	1前		1		○		
現代文化学基礎Ⅱ	1後		1		○		
国際公共政策論	1･2前		1		○		
日本政治と市民社会1	1･2前		1		○		
Japan's Politics and Civil Society 1	1･2後		1		○		
環境とマクロ経済学1	1･2前		1		○		
The Environment and Macroeconomics 1	1･2後		1		○		
地域研究論	1･2前		1		○		

本学術院では、人間および社会に関する諸問題、隣接･関連分野における研究

手法に関する基礎的な知識を広めることによって、学生の専攻分野に関する研究を広い視点から捉え直し、新たな研究を推進することを促すためにビジネス科学研究群が開設する「ビジネス法入門」や、人文社会科学研究群が開設する「哲学プラクティス」などの科目が置かれています。**自分の所属している学位プログラム（人文学学位プログラムはサブプログラム）が開設している科目以外の科目を履修するようにしてください**。（自分の所属している学位プログラム（人文学学位プログラムはサブプログラム）が開設している科目が開設している科目を履修した場合、基礎科目扱いとなります。）

また企業・組織の経営者による経営上の課題とトップマネジメントの実践方法を修得することを目的とし、**学生が社会のニーズに応え、キャリアパスを意識した研究を推進するための基礎的な素養を身につけることができる「トップレクチャーI・II」**（ビジネス科学研究群開設）もあります。集中授業で夜間に開かれますが、**国際公共政策学位プログラムをはじめ、人文社会科学研究群の多くの学生の受講を歓迎**します。

(3) 研究群共通科目

「研究群共通科目」は、幅広い知識・教養・行動力を身につけさせるため、博士前期課程の学生を対象に開設しています（表 4 参照）。

表 4　研究群共通科目

授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
		必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
修士論文合同演習	1後	1				○	
研究法入門	1前		1		○		
Academic Writing and Research Ethics	1後		1		○		
人文社会科学のためのグラントライティング入門	1・2後		1		○		
人文社会科学のためのインターンシップ(1)	1・2通		1				○
人文社会科学のためのインターンシップ(2)	1・2通		1				○

「修士論文合同演習」（1 単位）は、学生が自らの研究を人文社会科学分野の中で位置づけるとともに学際的な研究を促すための**必修科目**です。この科目では、本研究群の博士前期課程 1 年次生を対象に、各学位プログラムから推薦された、優れた修士論文を提出した 2 年次生が研究発表を行い、質疑、意見交換を行い、実施後、課題を提出させます。同じ分野のみならず、他分野の研究発表を聞き、議論を行うことによって、専門知識を深めるとともに、他分野における研究課題設定、解決方法を学ぶことによって、修士論文執筆に向けて研究力を高めるのみならず、自らの研究を人文社会科学分野において位置づけ、さらには学際的な研究への発展を企図しています。

「研究法入門」（1 単位）は、人文社会科学に共通する研究倫理や情報倫理について修得するとともに、研究者に求められる基本的態度や情報リテラシー、論文作成法、研究者・高度専門職業人としてのキャリアについて考えるための科目です。日本語を理解しない留学生に対しては、英語で**"Academic Writing and Research Ethics"**（1 単位）を開講します。**本研究群の博士前期課程の学生は、いずれかの科目を選択して必ず履修しなければなりません。**

このほかに研究群共通科目として、**「人文社会科学のためのグラントライティング入門」「人文社会科学のためのインターンシップ(1)、(2)」**を選択科目として開講します。

(4)コンピテンス達成度の評価

学位ごとに、修了時に学生が備えているべき知識・能力等を**「コンピテンス」**として設定し、ディプロマ・ポリシーに明示しています。コンピテンスには、**「汎用コンピテンス」**と**「専門コンピテンス」（学位プログラムコンピテンス）**があります。その取得に向けては、大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目、各学位プログラムにおける教育課程を体系的に編成しており、**カリキュラムマップ**においてコンピテンスとの対応関係を提示しています。

「汎用コンピテンス」は、世界の多様な場、変化の激しい社会で生涯にわたる活躍を支える資質としての汎用的能力で、**学生の専攻分野にかかわらず、本学大学院生として共通に達成されるべきもの**です。前述した**大学院共通科目などによって身につけます。**

博士前期課程修了時に備えるべき汎用コンピテンスは、**「知の活用力」「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」「チームワーク力」「国際性」**です。また**博士後期課程**修了時に備えるべき汎用コンピテンスは、**「知の創成力」「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ力」「国際性」**です（表 5 参照）。

表 5　汎用コンピテンス

	コンピテンス	評価の観点
修士	1. 知の活用力：高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた（または役立てようとしている）か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか
	2. マネジメント能力：広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか
	3. コミュニケーション能力：専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について，その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか
	4. チームワーク力：チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか
	5. 国際性：国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか
博士	1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか
	2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか
	3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか
	4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか
	5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか

「専門コンピテンス」は、**学生の専攻分野に関する高度な専門的知識・能力**で、前述した**学術院共通専門基盤科目や研究群共通科目、各学位プログラムの専門**

科目などによって身につけます。専門コンピテンスは、学術院－研究群－学位プログラムの階層ごとに体系的に設定されていますので、学位プログラムコンピテンスを修得すれば、学術院および研究群のコンピテンスも充足できます。**学術院および研究群の専門コンピテンスは、博士前期課程・博士後期課程とも、「研究力」「専門知識」「倫理観」**です（表 6 参照）。**人文学学位プログラムは、このほかに「思考力」「総合力」を身につける**ことを求めています。

表 6　人文社会科学研究群の専門コンピテンス

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
修士	1. 研究力：人文社会科学分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	① 人文社会科学分野における研究課題を設定する能力を身につけたか。 ② 人文社会科学分野における研究計画を遂行する能力を身につけたか。	学術院共通専門基盤科目、修士論文合同演習、研究法入門、専門科目（演習科目）、修士論文作成、研究会発表など
	2. 専門知識：人文社会科学分野における高度な専門知識と運用能力	① 人文社会科学分野における高度な専門知識を身につけたか。 ② 人文社会科学分野における専門知識の運用能力を身につけたか。	学術院共通専門基盤科目、修士論文合同演習、専門基礎科目、専門科目（講義科目、演習科目）、修士論文作成、研究会発表など
	3. 倫理観：人文社会科学分野の基礎的研究能力を有する人材にふさわしい倫理観と倫理的知識	① 人文社会科学分野において必要な倫理観を身につけたか。 ② 人文社会科学分野において必要な倫理的知識を身につけたか。	大学院共通科目（生命・環境・研究倫理科目群）、学術院共通専門基盤科目、研究法入門、専門科目（演習科目）、研究指導など
博士	1. 研究力：人文社会科学分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① 人文社会科学分野における先端的な研究課題を設定する能力を身につけたか。 ② 人文社会科学分野において自立して研究計画を遂行する能力を身につけたか。	大学院共通科目、専門科目（演習科目）、研究指導、博士論文作成、学会発表など
	2. 専門知識：人文社会科学分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	① 人文社会科学分野における先端的かつ高度な専門知識を身につけたか。 ② 人文社会科学分野における専門知識の総合的な運用能力を身につけたか。	大学院共通科目、専門科目（演習科目）、研究指導、博士論文作成、学会発表など
	3. 倫理観：人文社会科学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	① 人文社会科学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理的知識を身につけたか。 ② 専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識を身につけたか。	大学院共通科目（生命・環境・研究倫理科目群）、専門科目（演習科目）、研究指導など

コンピテンスは、大学院において修得できた知識・能力を可視化しようとするものです。**博士前期課程、博士後期課程の学生とも、学位取得までに、学位プログラムが設定するコンピテンスの基準を満たす必要**がありますが、修了要件以外の科目の履修や、学会活動、フィールド調査、インターンシップなどによっても、コンピテン

スを修得できます（コンピテンス達成に必要な単位数の一部に相当するものと認定することができます）ので、指導教員と相談のうえ、それらの科目履修や活動を積極的に行い、自らの特性と能力を伸ばしてください。

コンピテンスの達成度評価は、以下のように実施します。

(ア)　時期：原則として半年ごとに実施します。

入学後に、自分の研究計画をもとに、指導教員と相談して履修計画を立ててください。

・博士前期課程の場合

1 年次　9 月（学期末）、3 月（年度末）

2 年次　9 月（学期末）、中間発表時、修士論文提出時

*学位プログラム（サブプログラム）によって時期が多少前後することがあります。

・博士前期課程の**早期修了予定者は、修士論文提出資格の認定時にコンピテンス達成基準を満たしている必要**があります。

・博士後期課程の場合

1 年次　9 月（学期末）、3 月（年度末）

2 年次　9 月（学期末）、3 月（年度末）

3 年次　9 月（学期末）、予備審査時、博士論文提出時

*学位プログラム（サブプログラム）によって時期が多少前後することがあります。

(イ)　方法

1. 学生自身が、**カリキュラムマップを参照**して**「達成度評価シート」に記入**し、コンピテンスの達成状況を確認する。
2. **指導教員と面談**し、「達成度評価シート」に基づき、コンピテンスの達成状況について相互に確認する。**授業以外の学修・研究活動（学会参加、インターンシップ等）の状況**についても相互に確認し、コンピテンス達成に必要な単位数の一部に相当するものと認定することができる。不足がある場合は履修指導によって補い、コンピテンスの達成度を判定していく。

(ウ)　達成度評価基準

博士前期課程

人文学学位プログラム

汎用コンピテンス

知の活用力	3 単位
マネジメント能力	1 単位
コミュニケーション能力	2 単位
チームワーク力	1 単位
国際性	1 単位

専門コンピテンス

研究力	3 単位
専門知識	3 単位
倫理観	1 単位
思考力	3 単位
総合力	2 単位

国際公共政策学位プログラム

汎用コンピテンス

知の活用力	2 単位
マネジメント能力	2 単位
コミュニケーション能力	1 単位
チームワーク力	2 単位
国際性	2 単位

専門コンピテンス

研究力	4 単位
専門知識	4 単位
倫理観	2 単位

国際日本研究学位プログラム

汎用コンピテンス

知の活用力	3 単位
マネジメント能力	2 単位
コミュニケーション能力	2 単位
チームワーク力	1 単位
国際性	2 単位

専門コンピテンス

研究力	3 単位
専門知識	4 単位
倫理観	2 単位

博士前期課程の授業科目以外の評価項目のコンピテンス基準値

（人文学学位プログラム）

（授業科目以外の評価項目）	汎用コンピテンス					学位プログラムコンピテンス				
	知の活用力	マネジメント能力	コミュニケーション能力	チームワーク力	国際性	研究力	専門知識	倫理観	思考力	総合力
修士論文作成		0.4				0.5	0.3	0.2	0.3	0.3
外国語文献を利用した修士論文作成					0.2					
外国語による修士論文作成					0.4					
修士論文中間発表	0.1	0.3	0.3			0.1		0.1		0.1
外国語による修士論文中間発表					0.2					
修士論文構想発表	0.1	0.3	0.3			0.1		0.1		0.1
外国語による修士論文構想発表					0.2					
学会発表	0.1	0.3	0.3			0.1		0.1		0.1
外国語による学会発表					0.2					
ポスター発表	0.1	0.3	0.3			0.1		0.1		0.1
外国語によるポスター発表					0.2					
研究会発表	0.1	0.3	0.3			0.1		0.1		0.1
外国語による研究会発表					0.2					
国際会議発表	0.1	0.1	0.1		0.4	0.1		0.1		0.1
TA経験			0.5	0.5						
国外での活動経験					1					
チューター・留学生との交流			0.3		0.7					
外国語外部検定得点					1					
外国人との共同研究		0.2	0.2	0.2	0.4					
INFOSS情報倫理、APRIN e-learning								1		
達成度自己点検		1								
外部コンテスト等への参加		1								
チームでのコンテスト参加				1						
フィールドワーク（国内）の実施	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
フィールドワーク（国外）の実施	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
プロジェクト（共同調査研究）への参画	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
調査報告	0.2		0.2		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
地域還元・社会貢献	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
学会・研究会運営	0.2	0.2	0.2	0.2				0.2		

（国際公共政策学位プログラム・国際日本研究学位プログラム）

（授業科目以外の評価項目）	汎用コンピテンス					学位プログラムコンピテンス		
	知の活用力	マネジメント能力	コミュニケーション能力	チームワーク力	国際性	研究力	専門知識	倫理観
学会発表*	0.2		0.2			0.3	0.3	
ポスター発表*	0.2		0.2			0.3	0.3	
研究会発表*	0.2		0.2			0.3	0.3	
TA経験				1				
学会での質問*				1				
セミナーでの質問*				1				
国外での活動経験*					1			
留学生との交流					1			
TOEIC得点					1			
国際会議発表*					1			
外国人との共同研究					1			
INFOSS情報倫理、APRIN e-learning								1
達成度自己点検		1						
外部コンテスト等への参加*		1						
チームでのコンテスト参加*				1				

注）末尾に＊を付した授業科目以外の評価項目については、一件あたり最大合計1とするポイントを指導教員が内容に従って指定し、各コンピテンスに比例配分する。また、同一項目について複数件数を認定してもよいこととする。

博士後期課程

人文学学位プログラム

汎用コンピテンス

知の創成力	0.5 単位
マネジメント能力	0.5 単位
コミュニケーション能力	0.5 単位
リーダーシップ力	0.5 単位
国際性	0.5 単位

専門コンピテンス

研究力	1 単位
専門知識	1 単位
倫理観	1 単位
思考力	1 単位
総合力	1 単位

国際公共政策学位プログラム

汎用コンピテンス

知の創成力	1 単位
マネジメント能力	1 単位
コミュニケーション能力	1 単位
リーダーシップ力	1 単位
国際性	1 単位

専門コンピテンス

研究力	2 単位
専門知識	2 単位
倫理観	1 単位

国際日本研究学位プログラム

汎用コンピテンス

知の創成力	1 単位
マネジメント能力	1 単位
コミュニケーション能力	1 単位
リーダーシップ力	1 単位
国際性	1 単位

専門コンピテンス

研究力	1 単位
専門知識	1 単位
倫理観	1 単位

博士後期課程の授業科目以外の評価項目のコンピテンス基準値

（人文学学位プログラム）

（授業科目以外の評価項目）	汎用コンピテンス					学位プログラムコンピテンス				
	知の創成力	マネジメント能力	コミュニケーション能力	リーダーシップ力	国際性	研究力	専門知識	倫理観	思考力	総合力
博士論文作成		0.4				0.5	0.3	0.2	0.3	0.3
外国語文献を利用した博士論文作成					0.2					
外国語による博士論文作成					0.4					
博士論文中間発表	0.1	0.3	0.3			0.1		0.1		0.1
外国語による博士論文中間発表					0.2					
博士論文構想発表	0.1	0.3	0.3			0.1		0.1		0.1
外国語による博士論文構想発表					0.2					
学会発表	0.1	0.3	0.3			0.1		0.1		0.1
外国語による学会発表					0.2					
ポスター発表	0.1	0.3	0.3			0.1		0.1		0.1
外国語によるポスター発表					0.2					
研究会発表	0.1	0.3	0.3			0.1		0.1		0.1
外国語による研究会発表					0.2					
国際会議発表	0.1	0.1	0.1		0.4	0.1		0.1		0.1
TA/TF経験			0.5	0.5						
国外での活動経験					1					
チューター・留学生との交流			0.3		0.7					
外国語外部検定得点					1					
外国人との共同研究		0.2	0.2	0.2	0.4					
INFOSS情報倫理、APRIN e-learning								1		
達成度自己点検		1								
外部コンテスト等への参加		1								
チームでのコンテスト参加				1						
フィールドワーク（国内）の実施	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
フィールドワーク（国外）の実施	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
プロジェクト（共同調査研究）への参画	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
調査報告	0.2		0.2		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
地域還元・社会貢献	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
学会・研究会運営	0.2	0.2	0.2	0.2				0.2		

（国際公共政策学位プログラム・国際日本研究学位プログラム）

（授業科目以外の評価項目）	汎用コンピテンス					学位プログラムコンピテンス		
	知の創成力	マネジメント能力	コミュニケーション能力	リーダーシップ力	国際性	研究力	専門知識	倫理観
学会発表*	0.4		0.4			0.1	0.1	
ポスター発表*	0.4		0.4			0.1	0.1	
研究会発表*	0.4		0.4			0.1	0.1	
TA経験				1				
学会での質問*				1				
セミナーでの質問*				1				
国外での活動経験*					1			
留学生との交流					1			
TOEIC得点					1			
国際会議発表*					1			
外国人との共同研究					1			
INFOSS情報倫理、APRIN e-learning								1
達成度自己点検		1						
外部コンテスト等への参加*		1						
チームでのコンテスト参加*				1				

注）末尾に＊を付した授業科目以外の評価項目については、一件あたり最大合計1とするポイントを指導教員が内容に従って指定し、各コンピテンスに比例配分する。また、同一項目について複数件数を認定してもよいこととする。

(5) 哲学・思想サブプログラム（前期課程）

哲学・思想サブプログラム（前期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群又は科目名等	条件	修得単位数
基礎科目	「修士論文合同演習」	必修	1
	「研究法入門」 「Academic Writing and Research Ethics」	選択必修	1
	研究群共通科目（上記の3科目を除く） 大学院共通科目 学術院共通専門基盤科目（「哲学プラクティス」（AB）を除く）	選択必修	2～
専門基礎科目	「哲学プラクティス」（A,B)	必修	2
専門科目	「哲学・思想修士論文執筆演習」（AB）	必修	2
	分野別専門科目（上記以外の専門科目）	選択必修	22～
		修了単位数	30

（修了要件）

2 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については 1 年以上在学すれば足りるものとする。

(1) 研究群共通科目から「修士論文合同演習」と「研究法入門」ないし「Academic Writing and Research Ethics」）2 単位

(2) 上記以外の研究群共通科目、大学院共通科目、または学術院共通専門基盤科目（「哲学プラクティス」（AB）を除く）から 2 単位以上

(3) 専門基礎科目 「哲学プラクティス」（AB） 2 単位

(4) 「哲学・思想修士論文執筆演習」（AB） 2 単位を含む専門科目 24 単位以上（哲学・倫理学・宗教学の 3 分野のうち必ず 2 つ以上の分野にわたって履修すること）

（注）教育上有益と認められる場合には、10 単位を上限として人文学学位プログラムが定める範囲において、他の学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる

以下は、哲学・思想サブプログラム（前期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				単位修得数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目	21世紀と宗教	1							1
学術院共通専門基盤科目					文献資料学	1			1
基礎科目(研究群共通)	研究法入門	1	修士論文合同演習	1					2
専門基礎科目	哲学プラクティスA	1	哲学プラクティスB	1					2
専門科目	宗教思想史I(1)A	1	宗教思想史I(1)B	1	宗教思想史I(2)A	1	宗教思想史I(2)B	1	22
	宗教思想史I演習(1)A	1	宗教思想史I演習(1)B	1	宗教思想史I演習(2)A	1	宗教思想史I演習(2)B	1	
	宗教思想史II(1)A	1	宗教思想史II(1)B	1	宗教思想史II(2)A	1	宗教思想史II(2)B	1	
	西洋倫理思想史演習(1)A	1	西洋倫理思想史演習(1)B	1	西洋倫理思想史演習(2)A	1	西洋倫理思想史演習(2)B	1	
	西洋哲学Ⅰ(1)A	1	西洋哲学Ⅰ(1)B	1	西洋哲学Ⅰ(2)A	1	西洋哲学Ⅰ(2)B	1	
	宗教思想史III(1)A	1	宗教思想史III(1)B	1					
専門科目(論文執筆演習)					哲学・思想修士論文執筆演習A	1	哲学・思想修士論文執筆演習B	1	2
修得単位数	9		8		7		6		30
	17				13				
授業科目以外の学修	人文学類宗教学分野科目TA 指導教員による研究指導		人文学類宗教学分野科目TA 指導教員による研究指導		人文学類宗教学分野科目TA 指導教員による研究指導 学位論文構想報告		人文学類宗教学分野科目TA 指導教員による研究指導 学位論文中間報告		

※数字は単位数を表す。

(6) 歴史・人類学サブプログラム（前期課程）

歴史・人類学サブプログラム（前期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群又は科目名等	条件	修得単位数
基礎科目	「修士論文合同演習」	必修	1
	「研究法入門」 「Academic Writing and Research Ethics」	選択必修	1
	研究群共通科目（上記の3科目を除く） 大学院共通科目 学術院共通専門基盤科目	選択必修	2～
専門基礎科目		選択必修	8～
専門科目		選択必修	8～
		修了単位数	30

（修了要件）

2 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については 1 年以上在学すれば足りるものとする。

(1) 研究群共通科目から「修士論文合同演習」と「研究法入門」ないし「Academic Writing and Research Ethics」）2 単位
(2) 上記以外の研究群共通科目、大学院共通科目、または学術院共通専門基盤科目から 2 単位以上
(3) 専門基礎科目から所属領域が指定する（各領域基礎演習 IA～IIB）8 単位以上
(4) 専門科目から 8 単位以上
(5) 専門基礎科目、専門科目には他サブプログラムの授業科目を含めることができる。

（注）教育上有益と認められる場合には、10 単位を上限として人文学学位プログラムが定める範囲において、他の学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

以下は、歴史・人類学サブプログラム（前期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次 春学期		1年次 秋学期		2年次 春学期		2年次 秋学期		単位修得数
大学院共通科目	研究倫理	1							1
学術院共通専門基盤科目					文献資料学	1			1
基礎科目（研究群共通）	研究法入門 人文社会科学のためのインターンシップ(I)	1 1	修士論文合同演習 人文社会科学のためのグラントライティング入門	1 1					4
専門基礎科目	日本史学基礎演習ＩA	2	日本史学基礎演習ＩB	2	修士論文演習A 日本史学基礎演習ⅡA	1 2	修士論文演習B 日本史学基礎演習ⅡB	1 2	10
専門科目	日本史特講ⅡA 日本史演習ⅢA 日本史基礎実習 民俗学特講ＩA 文化変動論A（国際公共政策学位P）	1 1 2 1 1	日本史特講ⅡB 日本史演習ⅢB 民俗学特講ＩB 文化変動論演習A（国際公共政策学位P）	1 1 1 1	日本史演習ⅡA 日本史特講ⅢA 民俗学演習ＩA 日本史研究法実習	1 1 1 2	日本史演習ⅡB 日本史特講ⅢB 民俗学演習ＩB	1 1 1	18
修得単位数	11		8		9		6		34
	19				15				
授業科目以外の学修	比較文化学類「日本研究概論Ｉ」TA 共同研究（フィールドワークを含む）		比較文化学類「日本研究実験実習Ｉ」TA 共同研究（フィールドワークを含む）		比較文化学類「日本研究特論」TA 共同研究（フィールドワークを含む）		比較文化学類「日本研究実験実習Ⅱ」TA 共同研究（フィールドワークを含む）		

※数字は単位数を表す。

(7) 文学サブプログラム（前期課程）

文学サブプログラム（前期課程）では、専門基礎科目として「文献資料学」「比較文学」「表象文化論」の 3 科目を用意しており、文学研究方法の基礎を学びます。専門科目は大きく 3 つの科目群からなっています。(1)文学の理論、分析方法を中心とした科目群、(2)各国文学の分析を中心とした科目群、(3)修士論文の執筆のための(論文指導)科目群です。(1)は先鋭的な研究方法に基づいた理論研究や比較研究など、(2)はオリエント・古典古代、日本、イギリスおよび英語圏、フランス、中国などの各国における文学の徹底的分析を中心として扱います。各自の問題意識に応じて科目を選択履修したうえで、(3)2 年次必修科目として「文学研究演習」を履修し論文指導を受けて修士論文を執筆します。その過程で研究上の必要性から、人文学学位プログラムの他サブプログラムの科目を履修することもできます。一枚岩でない文学研究の方法の多様性を修得することによって、多角的に文学現象にアプローチする能力を身につけることができます。

文学サブプログラム（前期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

<table>
<tr><th>科目区分</th><th>科目群又は科目名等</th><th>条件</th><th>修得単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">基礎科目</td><td>「修士論文合同演習」</td><td>必修</td><td>1</td></tr>
<tr><td>「研究法入門」
「Academic Writing and Research Ethics」</td><td>選択必修</td><td>1</td></tr>
<tr><td>研究群共通科目（上記の3科目を除く）
大学院共通科目
学術院共通専門基盤科目（「文献資料学」「比較文学」「表象文化論」を除く）</td><td>選択必修</td><td>2</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td>学術院共通専門基盤科目「文献資料学」「比較文学」「表象文化論」を含む</td><td>選択</td><td rowspan="3">26</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門科目</td><td>「文学研究演習A/B」計4単位</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="3">修了単位数</td><td>30</td></tr>
</table>

（修了要件）

2 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については 1 年以上在学すれば足りるものとする。

(1) 研究群共通科目から「修士論文合同演習」と「研究法入門」ないし「Academic

Writing and Research Ethics」）2 単位

(2) 上記以外の研究群共通科目、大学院共通科目、または学術院共通専門基盤科目（「文献資料学」「比較文学」「表象文化論」を除く）から 2 単位以上

(3) 専門基礎科目、専門科目 26 単位以上（「文学研究演習」4 単位を含むこと）

(4) 専門基礎科目、専門科目には他サブプログラムの授業科目を含めることができる。

（注）教育上有益と認められる場合には、10 単位を上限として人文学学位プログラムが定める範囲において、他の学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

以下は、文学サブプログラム（前期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				単位数 修得
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目	研究倫理	1							1
学術院共通専門基盤科目			言語資料論	1					1
基礎科目（研究群共通）	研究法入門	1							2
			修士論文合同演習	1					
専門基礎科目	文献資料学	1			比較文学	1			2
専門科目	文学批評研究(1A)	1	文学批評研究(1B)	1	文学批評研究(2A)	1	文学批評研究(2B)	1	24
	文学研究発表演習A	1	文学研究発表演習B	1	文学理論研究(2A)	1	文学理論研究(2B)	1	
	文学理論研究(1A)	1	文学理論研究(1B)	1	文学交流論演習(2A)	1	文学交流論演習(2B)	1	
	文学交流論演習(1A)	1	文学交流論演習(1B)	1	比較文学研究(2A)	1	比較文学研究(2B)	1	
	比較文学研究(1A)	1	比較文学研究(1B)	1	Transnational Literature(1)	1	Applied Humanities(1)	1	
					文学研究演習A	2	文学研究演習B	2	
修得単位数	8		7		8		7		30
	15				15				
授業科目以外の学修	指導教員などによる研究指導		指導教員などによる研究指導、研究発表会などにおける発表		修士論文構想発表会		修士論文中間発表会		

※数字は単位数を表す。

⑻ 言語学サブプログラム（前期課程）

言語学サブプログラム（前期課程）では、各個別言語学、様々な方法論の違いを超えて、言語の個別性と普遍性に関する洞察力、独創性と研究能力を有する人材を養成することを目的としています。このため、従来のような言語ごとのコースなどを設けず、各個別言語学、方法論を幅広く学べるような体制をとっています。また基礎的研究の深化・充実を図るだけではなく、応用的研究に関する知識、能力も身につけられるようにし、教育やその他の様々な分野で活躍できる人材の養成も行います。

このような目的に合わせ、前期課程では、「言語理論」「言語学史」などの言語研究の基礎を学ぶ科目群、「生成統語論」「対照言語学」などの言語研究の方法論等を学ぶ科目群、日本語学、英語学、ドイツ語学、中国語学といった個別言語の分析を学ぶ科目群、「日本語教育学」「言語情報論」などの言語的研究の応用的側面を学ぶ科目群を設けています。これらを指導教員グループの指導のもとバランスよく履修することで、言語の個別性と普遍性に関する知見を深めます。また、自身の研究テーマを深めるため、修士論文の作成の指導を行う年次ごとの演習科目、研究会発表等の指導を行う実習科目を設け、研究能力の育成を行います。

言語学サブプログラム（前期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

<table>
<tr><th>科目区分</th><th>科目群又は科目名等</th><th>条件</th><th>修得単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">基礎科目</td><td>「修士論文合同演習」</td><td>必修</td><td>1</td></tr>
<tr><td>「研究法入門」
「Academic Writing and Research Ethics」</td><td>選択必修</td><td>1</td></tr>
<tr><td>研究群共通科目（上記の3科目を除く）
大学院共通科目
学術院共通専門基盤科目（「言語対照論」「言語資料論」を除く）</td><td>選択必修</td><td>2</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目</td><td>学術院共通専門基盤科目「言語対照論」「言語資料論」を含む</td><td>選択</td><td rowspan="4">26</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門科目</td><td>「プロジェクト演習(1A)～(2B)」から4科目</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>「プロジェクト実習(1A)～(2B)」から2科目</td><td>選択必修</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="3">修了単位数</td><td>30</td></tr>
</table>

（修了要件）

2 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試

験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については 1 年以上在学すれば足りるものとする。

(1) 研究群共通科目から「修士論文合同演習」と「研究法入門」ないし「Academic Writing and Research Ethics」）2 単位

(2) 上記以外の研究群共通科目、大学院共通科目、または学術院共通専門基盤科目（「言語対照論」「言語資料論」を除く）から 2 単位以上

(3) 専門基礎科目、専門科目 26 単位以上（「プロジェクト演習」8 単位、「プロジェクト実習」2 単位を含むこと）

(4) 専門基礎科目、専門科目には他サブプログラム等の授業科目を含めることができる。

（注）教育上有益と認められる場合には、10 単位を上限として人文学学位プログラムが定める範囲において、他の学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

以下は、言語学サブプログラム（前期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				単位修得数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目			21世紀的中国ー現代中国的多相ー	1					1
学術院共通専門基盤科目	地域研究論	1							1
基礎科目（研究群共通）	研究法入門	1	修士論文合同演習	1					2
専門基礎科目	言語理論	1	言語資料論	1	言語学史	1	言語対照論	1	4
専門科目	形態論A	1	形態論B	1	日本語文法論IIA	1	日本語文法論IIB	1	22
	日本語文法論IA	1	日本語文法論IB	1	生成統語論A	1	生成統語論B	1	
	言語情報論A	1	言語情報論B	1	プロジェクト演習(2A)	2	プロジェクト演習(2B)	2	
	中国語学A	1	中国語学B	1	プロジェクト実習(2A)	1	プロジェクト実習(2B)	1	
	プロジェクト演習(1A)	2	プロジェクト演習(1B)	2					
修得単位数	9		9		6		6		30
	18				12				
授業科目以外の学修	指導教員による研究指導等		指導教員による研究指導、研究発表会における発表等		指導教員による研究指導、研究発表会における発表等		指導教員による研究指導、研究発表会における発表等		

※数字は単位数を表す。

⑨現代文化学サブプログラム（前期課程）

現代文化学サブプログラム（前期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群又は科目名等	条件	修得単位数
基礎科目	「修士論文合同演習」	必修	1
	「研究法入門」 「Academic Writing and Research Ethics」	選択必修	1
	研究群共通科目（上記の3科目を除く） 大学院共通科目 学術院共通専門基盤科目（「現代文化学基礎 I, II」を除く）	選択必修	2
専門基礎科目	「現代文化学基礎I, II」	必修	2
専門科目		選択必修	24
		修了単位数	30

（修了要件）

2 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については 1 年以上在学すれば足りるものとする。

(1) 研究群共通科目から「修士論文合同演習」と「研究法入門」ないし「Academic Writing and Research Ethics」）2 単位
(2) 上記以外の研究群共通科目、大学院共通科目、または学術院共通専門基盤科目（「現代文化学基礎 I, II」を除く）から 2 単位
(3) 専門基礎科目「現代文化学基礎 I、II」2 単位
(4) 専門科目 24 単位
(5) 専門基礎科目、専門科目には他サブプログラム等の授業科目を含めることができる。

（注）教育上有益と認められる場合には、10 単位を上限として人文学学位プログラムが定める範囲において、他の学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

以下は、現代文化学サブプログラム（前期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				修得単位数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目	研究倫理	1	人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える	1					2
基礎科目(研究群共通)	研究法入門	1	修士論文合同演習	1					2
専門基礎科目	現代文化学基礎Ⅰ	1	現代文化学基礎Ⅱ	1					2
専門科目	文化現象学IA	1	文化現象学IB	1	文化現象学IIA	1	文化現象学IIB	1	25
	文化批評学 Ⅰ	2			文化批評学 Ⅱ	2			
	文化生成学IA	1	文化生成学IB	1	文化生成学IIA	1	文化生成学IIB	1	
	感性文化学IA	1	感性文化学IB	1	感性文化学IIA	1	感性文化学IIB	1	
	文化差異学IA	1	文化差異学IB	1	文化差異学IIA	1	文化差異学IIB	1	
	文化横断学IA	1	文化横断学IB	1	文化横断学IIA	1	文化横断学IIB	1	
	西洋哲学Ⅱ演習(1)A	1							
修得単位数	11		8		7		5		31
	19				12				
授業科目以外の学修	主指導・副指導教員からの研究指導		研究会における発表、主指導・副指導教員からの研究指導		修士論文構想発表会		修士論文中間発表会		

※数字は単位数を表す。

(10) 英語教育学サブプログラム（前期課程）

英語教育学サブプログラム（前期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群又は科目名等	条件	修得単位数
基礎科目	「修士論文合同演習」	必修	1
	「研究法入門」 「Academic Writing and Research Ethics」	選択必修	1
	研究群共通科目（上記の3科目を除く） 大学院共通科目 学術院共通専門基盤科目	選択必修	2
専門科目	「英語教育学論文演習I、II」	必修	2
	その他	選択必修	24
		修了単位数	30

（修了要件）

2 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については 1 年以上在学すれば足りるものとする。

(1) 研究群共通科目から「修士論文合同演習」と「研究法入門」ないし「Academic Writing and Research Ethics」）2 単位

(2) 上記以外の研究群共通科目、大学院共通科目、または学術院共通専門基盤科目から 2 単位

(3) 専門科目「英語教育学論文演習 I、II」2 単位

(4) 英語教育学サブプログラムないしは他のサブプログラム等の教育職員免許状に係る授業科目（英語）24 単位

（注）教育上有益と認められる場合には、10 単位を上限として人文学学位プログラムが定める範囲において、他の学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

以下は、英語教育学サブプログラム（前期課程）の履修モデルです。

科目区分 ＼ 年次・学期		1年次 春学期		1年次 秋学期		2年次 春学期		2年次 秋学期		単位数 修得
大学院共通科目		英語発表	1			Global Communication Skills Training	1			2
基礎科目(研究群共通)		研究法入門	1	修士論文合同演習	1					2
専門科目	教育職員免許状に係る科目(24単位以上)	英語教育学IA	1	英語教育学IB	1	英語教育学ⅡA	1	英語教育学ⅡB	1	26
		英語教育学ⅢA	1	英語教育学ⅢB	1	英語教育学ⅧA	1	英語教育学ⅧB	1	
		英語教育学ⅤA	1	英語教育学ⅤB	1	英語教育学ⅩA	1	英語教育学ⅩB	1	
		英語教育学ⅨA	1	英語教育学 ⅨB	1					
		英文法研究Ⅰ	1	英語圏の文化・文学Ⅰ	1					
		英語教育学演習Ⅰ	1	英語教育学演習Ⅲ	1					
		英語教育学演習Ⅸ	1	英語教育学演習Ⅶ	1					
		英語教育学研究 ⅠA	1	英語教育学研究 ⅠB	1	英語教育学研究 ⅡA	1	英語教育学研究 ⅡB	1	
	論文演習					英語教育学論文演習Ⅰ	1	英語教育学論文演習 Ⅱ	1	
修得単位数		10		9		6		5		30
		19				11				
授業科目以外の学修		学会参加・発表・INFOSS情報倫理受講・FD研修参加・TA研修・非常勤実習		学会誌・学術誌論文投稿・TA研修・非常勤実習・海外研修・外国語外部試験		修士論文構想発表会 /学会参加・発表・TA/TF研修・非常勤実習・海外研修・外国語外部試験		修士論文中間発表会・修士論文公開審査会/学会誌・学術誌論文投稿・TA/TF研修・非常勤実習		

※数字は単位数を表す。

科目区分 ＼ 年次・学期		1年次 春学期		1年次 秋学期		2年次 春学期		2年次 秋学期		単位数 修得
大学院共通科目		英語発表	1			Global Communication Skills Training	1			2
基礎科目(研究群共通)		研究法入門	1	修士論文合同演習	1					2
専門科目	教育職員免許状に係る科目(24単位以上)	英語教育学IA	1	英語教育学IB	1	英語教育学ⅡA	1	英語教育学ⅡB	1	26
		英語教育学ⅢA	1	英語教育学ⅢB	1					
		英語教育学ⅤA	1	英語教育学ⅤB	1					
		英語教育学ⅨA	1	英語教育学 ⅨB	1					
		英文法研究Ⅰ	1	英語圏の文化・文学Ⅰ	1					
		英語教育学演習Ⅰ	1	英語教育学演習Ⅲ	1	英語教育学演習Ⅱ	1	英語教育学演習Ⅳ	1	
		英語教育学演習Ⅸ	1	英語教育学演習Ⅶ	1	英語教育学演習Ⅵ	1	英語教育学演習Ⅷ	1	
		英語教育学研究 ⅠA	1	英語教育学研究 ⅠB	1	英語教育学研究 ⅡA	1	英語教育学研究 ⅡB	1	
	論文演習					英語教育学論文演習Ⅰ	1	英語教育学論文演習 Ⅱ	1	
修得単位数		10		9		6		5		30
		19				11				
授業科目以外の学修		学会参加・発表・INFOSS情報倫理受講・FD研修参加・TA研修・非常勤実習		学会誌・学術誌論文投稿・TA研修・非常勤実習・海外研修・外国語外部試験		修士論文構想発表会 /学会参加・発表・TA/TF研修・非常勤実習・海外研修・外国語外部試験		修士論文中間発表会・修士論文公開審査会/学会誌・学術誌論文投稿・TA/TF研修・非常勤実習		

※数字は単位数を表す。

(11) 国際公共政策学位プログラム（前期課程）

国際公共政策学位プログラム（前期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群等	条件又は科目名等	修得単位数
基礎科目	大学院共通科目	選択必修	1～
	学術院共通専門基盤科目	選択必修 （「国際公共政策論」、「地域研究論」を除く）	1～
	研究群共通科目	「修士論文合同演習」（必修）	1
		「研究法入門」、または「Academic Writing and Research Ethics」（選択必修）	1
専門基礎科目	専門基礎科目	選択必修 （「国際公共政策論」、「地域研究論」を含む）	2～
専門科目	専門科目	講義科目および演習科目（選択必修）	8～
		「国際公共政策リサーチワークショップA」および「国際公共政策リサーチワークショップB」（必修）	6
		修了単位数	30

（修了要件）

2 年以上在学し、上表の履修方法により、30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

（注）教育上有益と認められる場合には、10 単位を上限に、他の学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

以下は、国際公共政策学位プログラム（前期課程）の履修モデルです。なお、公共経営履修モデルについては、次項を参照してください。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				単位数 修得
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目	研究倫理	1							1
学術院共通専門基盤科目			トップレクチャーⅠ Japan's Politics and Civil Society 1	1 1			トップレクチャーⅡ	1	3
基礎科目(研究群共通)	研究法入門	1	修士論文合同演習	1					2
専門基礎科目	国際公共政策論 地域研究論 国際関係論B 政策評価分析	1 1 1 1	国際関係論A	1					5
専門科目	国際政治理論A 東アジア政治外交A 国際安全保障論A 国際政治史A 比較政治学A	1 1 1 1 1	国際政治理論演習A 東アジア政治外交演習A	1 1	国際政治理論B 東アジア政治外交B 国際安全保障論B 国際政治史B 国際公共政策リサーチワークショップA	1 1 1 1 3	国際政治理論演習B 東アジア政治外交演習B 国際公共政策リサーチワークショップB	1 1 3	19
修得単位数	11		6		7		6		30
	17				13				
授業科目以外の学修	指導教員による研究指導等		指導教員による研究指導、研究発表会における発表等		指導教員による研究指導、研究発表会における発表等		指導教員による研究指導、研究発表会における発表等		

※数字は単位数を表す。

(12) 公共経営履修モデル（国際公共政策学位プログラム）

国際公共政策学位プログラム（博士前期課程）では、人文・社会系学部出身の社会人で、**企業人として現場に活かせる知識を学びながら、学部で積み上げた専門知識をさらに深めて修士論文にまとめ、修士の学位を取得することを目指す人**を受け入れます。

具体的には、人文・社会系学部を卒業して社会に出て職を有した人が、在職したまま大学院に入学し、ビジネス科学研究群の科目（夜間・土曜開講）を 10 単位以内、学術院共通専門基盤科目を 1 単位以上履修し、筑波キャンパスで休業期間などを生かして論文指導科目等を中心に学修し、「修士（国際公共政策）」の学位取得を目指す履修モデルです。東京を勤務地とする者を主たる対象として、企業人として現場に生かせる知識、たとえば経営や法律を学びながら、学部で積み上げた政治学・国際関係分野の専門知識をさらに深めて修士論文にまとめ、修士（国際公共政策）の学位を取得することを目指します。

図書館・情報処理などの施設は、東京キャンパス文京校舎に置かれる大学附属の大塚図書館（文京校舎 B1F）や東京サテライト（文京校舎 4F454）などを利用することができます。また論文指導は、日常的には電子メールやオンラインツールを利用するなどして、学生の負担をできるだけ少なくします。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				単位修得数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目	研究倫理	1							1
学術院共通専門基盤科目			トップレクチャーⅠ (ビジネス科学研究群開設)	1			トップレクチャーⅡ (ビジネス科学研究群開設)	1	2
基礎科目(研究群共通)	研究法入門	1	修士論文合同演習	1					2
専門基礎科目	国際公共政策論 公共政策論A 政策評価分析	1 1 1							3
専門科目	経営戦略論 (ビジネス科学研究群開設) 経営組織論 (ビジネス科学研究群開設) マーケティングリサーチ (ビジネス科学研究群開設) 比較政治学A 現代政策過程分析A	1 1 1 1 1	技術経営論 (ビジネス科学研究群開設) 組織変革 (ビジネス科学研究群開設) 比較政治学演習A 日本政治論演習A	1 1 1 1	マーケティングサイエンス (ビジネス科学研究群開設) 消費者行動 (ビジネス科学研究群開設) 公共政策論B 比較政治学B 現代政策過程分析B 国際公共政策リサーチワークショップA	1 1 1 1 1 3	比較政治学演習B 日本政治論演習B 国際公共政策リサーチワークショップB	1 1 3	22
修得単位数	10		6		8		6		30
	16				14				
授業科目以外の学修	指導教員による研究指導等		指導教員による研究指導、研究発表会における発表等		指導教員による研究指導、研究発表会における発表等		指導教員による研究指導、研究発表会における発表等		

※数字は単位数を表す。

(13) 国際日本研究学位プログラム(前期課程)

国際日本研究学位プログラム(前期課程)の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群等	条件又は科目名等	修得単位数
基礎科目	基礎科目	大学院共通科目または学術院専門共通基盤科目から1単位以上を修得する。 「修士論文合同演習」(1単位)を必ず修得する。 「研究法入門」または「Academic Writing and Research Ethics」のいずれか1単位を必ず修得する。	3～
専門基礎科目	専門基礎科目	必ず7単位以上を修得する。 ・「国際日本研究のための英語」または「国際日本研究のための日本語」のいずれか1単位 を必ず修得する。	25～
専門科目	専門科目	必ず12単位以上を修得する。 ・1年次に「プロジェクト演習1A」「プロジェクト演習1B」のいずれか2単位を必ず修得する。 ・2年次に「プロジェクト演習2A」「プロジェクト演習2B」のいずれか2単位、および、 「プロジェクト演習2C」「プロジェクト演習2D」のいずれか2単位をそれぞれ必ず修得する。	
		修了単位数	32

（修了要件）

2 年以上在学し、上記に定める修了要件として必要な授業科目の履修により所定の 32 単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については 1 年以上在学すれば足りるものとする。

（注）

・教育上有益と認められる場合は、学位プログラム教育会議の承認を得て、10 単位を上限として、他学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

・上記の要件には、国際日本研究学位プログラム後期課程の開講科目 4 単位までを含むことができる。ただし、これらの科目が修了に必要な単位として認められた場合、認められた者が後期課程に進学した際には、その者の後期課程修了に必要な単位としては認定しない。

以下は、国際日本研究学位プログラム（前期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				単位修得数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		
学術院共通専門基盤科目	哲学プラクティスA	1							1
基礎科目(研究群共通)	研究法入門	1	修士論文合同演習	1					2
専門基礎科目	複合研究基礎論	1	国際日本研究のための英語	1	比較メディア思想1	1			14
	日本社会と宗教1A	1	日本社会と宗教1B	1					
	メディア研究 1	1	Media Research 1	1					
	メディア思想と日本社会1	1	計量分析1B	1					
	日本政治と市民社会1	1	Japan's Politics and Civil Society 1	1					
	公共政策論A(国際公共政策学位P)	1							
	計量分析1A	1							
	環境とマクロ経済学1	1							
専門科目	アイドルと社会経済	1	プロジェクト演習1A	2	プロジェクト演習2A	2	プロジェクト演習2C	2	15
	翻訳から見た日本と東アジアの文化1	1	メディア思想と日本社会2	1	日本社会と宗教2A	1	Media Research 2	1	
					メディア研究 2	1	比較メディア思想2	1	
					日本政治と市民社会2	1			
					公共政策論B(国際公共政策学位P)	1			
修得単位数	12		9		7		4		32
	21				11				
授業科目以外の学修	指導教員による研究指導		詳細な研究計画の作成		修士論文執筆		修士論文執筆		

※数字は単位数を表す。

(14) 日本語教師養成プログラム・日本語教育実践研究プログラム

国内外において日本語を必要とする人が増えています。本プログラムでは**日本語の教育方法のみならず、教材開発、評価などの実践的知識を提供し、コース運営能力の育成、教育能力を養成する**ものです。人文社会科学研究群の所属の学位プログラムの修了要件を満たし、かつ所属の学位プログラムおよび指導教員の承諾を得たうえで、当プログラムの要件を満たした場合、人文社会科学研究群において**「日本語教師養成プログラム修了証明書」または「日本語教育実践研修修了証明書」**が交付されます。国際日本研究学位プログラム（博士前期課程）が運用しています。

【修了要件】 履修にあたっては、学生の申請した年度の履修要件をその学生に対して適用する。ただし、履修要件に変更が生じた場合、変更前にプログラムの受講を一度でも申請したことのある学生については、申請翌年度以降に改めて申請することによって異なる履修要件の適用を受けることを認めない。

Ａ ：日本語教師養成プログラム

対象者 ：国際日本研究学位プログラム日本語教育学領域に所属する博士前期課程の学生

修了要件：下記4要件を満たし26単位以上を修得すること。要件充足者には「日本語教師養成プログラム修了書」を授与する。

・「日本語教育原論」「日本語教育評価法」「日本語教育研究概論」をすべて取得していること。

（合計3単位）

・ 修士論文のテーマが日本語または日本語教育等に関する内容であること。

（「プロジェクト演習」科目を合計6単位）

・「日本語教育実践研究1」「日本語教育実践研究2」「日本語教育実践研究3」のうちいずれか2科目を取得していること。

（合計6単位）

・ 下記の本プログラム授業科目別表に掲げるもののうち、「専門科目」に該当する授業科目から合計11単位を取得していること。

（合計11単位以上）

Ｂ ：日本語教育実践研修プログラム

対象者 ：上記A以外の人文社会科学研究群に所属する大学院生（博士後期課程学生も含む）

修了要件：下記4要件を満たし13単位以上を修得すること。要件充足者には「日本語教育実践研修修了書」を授与する。

・「日本語教育原論」「日本語教育評価法」をすべて取得していること。

（合計2単位）

・「日本語教育実践研究1」または「日本語教育実践研究3」からいずれか1科目を取得していること。

（合計3単位）

・ 下記の本プログラム授業科目別表に掲げるもののうち、「専門科目」に該当する授業科目のなかから合計8単位を取得していること。

（合計8単位以上）

・ ただし、本プログラムの履修を希望する場合には、希望学生は自らの指導教員から本プログラム履修についての了承をあらかじめ得ておかなければならない。

【備考】※なお、A の対象者が B の受講を希望する場合、または、B の対象者が A の受講を希望する場合は、春 A モジュール開講『日本語教育原論』（水曜 5 時限）第 1 回目にて、プログラムコーディネーターにあらかじめ相談すること。

(15) 哲学・思想サブプログラム（後期課程）

哲学・思想サブプログラム（後期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群又は科目名等	条件	修得単位数
専門科目	「プレゼンテーション演習」	必修	1
	「哲学・思想博士論文執筆演習」（IA～IIIB）	必修	6
		修了単位数	7

（修了要件）

・3 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 7 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については 1 年（修士課程早期修了者等にあっては当該課程における在学期間を含めて 3 年）以上在学すれば足りるものとする。

(1)「プレゼンテーション演習」1 単位

(2)「哲学・思想博士論文執筆演習」（IA～IIIB）6 単位

・人文社会科学研究群が行う「研究倫理等についてのガイダンス」を受講することを修了要件とする。

・e-learning（eL-CoRE または eAPRIN〔旧 CITI Japan〕）での受講修了書を博士論文予備審査申請の際に提出することを修了要件とする。

（注） 研究群共通科目、大学院共通科目から 1 単位を履修することを推奨する。

以下は、哲学・思想サブプログラム（後期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				3年次				修得単位数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目			人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える	1									1
専門科目	哲学・思想博士論文執筆演習ⅠA プレゼンテーション演習	1 1	哲学・思想博士論文執筆演習ⅠB	1	哲学・思想博士論文執筆演習ⅡA	1	哲学・思想博士論文執筆演習ⅡB	1	哲学・思想博士論文執筆演習ⅢA	1	哲学・思想博士論文執筆演習ⅢB	1	7
修得単位数	2		2		1		1		1		1		8
	4				2				2				
授業科目以外の学修	比較文化学類現代思想分野科目TA 指導教員による研究指導 学会誌等への論文投稿		比較文化学類現代思想分野科目TA 指導教員による研究指導 学会の学術大会における口頭発表		前期課程専門基礎科目「哲学プラクティスA」TF 指導教員による研究指導 学会誌等への論文投稿		前期課程専門基礎科目「哲学プラクティスB」TF 指導教員による研究指導 学会の学術大会における口頭発表		指導教員による研究指導 学位論文中間報告 学会誌等への論文投稿		指導教員による研究指導 学会の学術大会における口頭発表		

※数字は単位数を表す。

(16) 歴史・人類学サブプログラム（後期課程）

歴史・人類学サブプログラム（後期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群又は科目名等	条件	修得単位数
専門科目		選択必修	6
		修了単位数	6

（修了要件）

・3 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 6 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については 1 年（修士課程早期修了者等にあっては当該課程における在学期間を含めて 3 年）以上在学すれば足りるものとする。

(1) 所属領域が指定する専門科目（各領域研究演習IA～IIIB 及び研究実習 AB）6 単位

・人文社会科学研究群が行う「研究倫理等についてのガイダンス」を受講することを修了要件とする。

・e-learning（eL-CoRE または eAPRIN〔旧 CITI Japan〕）での受講修了書を博士論文予備審査申請の際に提出することを修了要件とする。

（注）

(1) 研究群共通科目、大学院共通科目から 1 単位を履修することを推奨する。

(2) 教育上有益と認められる場合には人文学学位プログラムが定める範囲において、他の学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

以下は、歴史・人類学サブプログラム（後期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次		2年次		3年次		修得単位数
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
大学院共通科目		人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える 1					1
専門科目	日本史学研究演習ⅠA 1	日本史学研究演習ⅠB 1	日本史学研究演習ⅡA 1	日本史学研究演習ⅡB 1	日本史学研究演習ⅢA 1	日本史学研究演習ⅢB 1	6
修得単位数	1	2	1	1	1	1	7
	3		2		2		
授業科目以外の学修	比較文化学類「日本研究概論Ⅰ」TA 共同研究（フィールドワークを含む）	比較文化学類「日本研究実験実習Ⅰ」TA 共同研究（フィールドワークを含む）	比較文化学類「日本研究概論Ⅰ」TF 共同研究（フィールドワークを含む）	比較文化学類「日本研究実験実習Ⅱ」TF 共同研究（フィールドワークを含む）	比較文化学類「日本研究概論Ⅰ」TF 共同研究（フィールドワークを含む）	比較文化学類「日本研究実験実習Ⅰ」TF 共同研究（フィールドワークを含む）	

※数字は単位数を表す。

(17) 文学サブプログラム（後期課程）

文学サブプログラム（後期課程）では、「文学論文演習」を履修し複数の教員から指導を受けることで、3 年間での博士論文の執筆を目指します。研究会や学会、海外での研究活動なども積極的に支援しています。とくに 1 年次には「英語文献講読」を履修し、論文執筆に関するアカデミックライティングが修得できるようになっています。

文学サブプログラム（後期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群又は科目名等	条件	修得単位数
基礎科目	大学院共通科目	選択必修	2
専門基礎科目	「英語文献講読」	必修	1
専門科目	「文学論文演習(1A)～(3B)」		12
		修了単位数	15

（修了要件）

・3 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 15 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については 1 年（修士課程早期修了者等にあっては当該課程における在学期間を含めて 3 年）以上在学すれば足りるものとする。

(1) 大学院共通科目　2 単位
(2)「英語文献講読」 1 単位
(3)「文学論文演習」 12 単位

・人文社会科学研究群が行う「研究倫理等についてのガイダンス」を受講することを修了要件とする。

・e-learning（eL-CoRE または eAPRIN〔旧 CITI Japan〕）での受講修了書を博士論文予備審査申請の際に提出することを修了要件とする。

以下は、文学サブプログラム（後期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				3年次				修得単位数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目					異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	(通年)	異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	2					2
専門基礎科目	英語文献講読	1											1
専門科目	文学論文演習(1A)	2	文学論文演習(1B)	2	文学論文演習(2A)	2	文学論文演習(2B)	2	文学論文演習(3A)	2	文学論文演習(3B)	2	12
修得単位数	3		2		2		4		2		2		15
	5				6				4				
授業科目以外の学修	指導教員などによる研究指導		指導教員などによる研究指導、フィールド調査、研究発表会における発表等		指導教員などによる研究指導、フィールド調査、学会発表等		指導教員などによる研究指導、フィールド調査、学会発表等		博士論文中間発表会		博士論文公開発表会		

※数字は単位数を表す。

(18) 言語学サブプログラム（後期課程）

言語学サブプログラム（後期課程）では、博士論文の作成、学会発表等の指導を中心として、演習科目、実習科目を履修することで着実に博士論文が作成できるようにしています。

言語学サブプログラム（後期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群又は科目名等	条件	修得単位数
基礎科目	大学院共通科目	選択必修	1
専門科目	「リサーチラボ演習(1A)～(3B)」	必修	12
	「リサーチラボ実習(1A)～(3B)」	選択必修	2
		修了単位数	15

（修了要件）

・3 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 15 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については 1 年（修士課程早期修了者等にあっては当該課程における在学期間を含めて 3 年）以上在学すれば足りるものとする。

(1) 大学院共通科目 1 単位
(2) 「リサーチラボ演習」12 単位
(3) 「リサーチラボ実習」2 単位

・人文社会科学研究群が行う「研究倫理等についてのガイダンス」を受講することを修了要件とする。

・e-learning（eL-CoRE または eAPRIN〔旧 CITI Japan〕）での受講修了書を博士論文予備審査申請の際に提出することを修了要件とする。

以下は、言語学サブプログラム（後期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				3年次				修得単位数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目			人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える	1									1
専門科目	リサーチラボ演習(1A)	2	リサーチラボ演習(1B)	2	リサーチラボ演習(2A) リサーチラボ実習(2A)	2 1	リサーチラボ演習(2B) リサーチラボ実習(2B)	2 1	リサーチラボ演習(3A)	2	リサーチラボ演習(3B)	2	14
修得単位数	2		3		3		3		2		2		15
	5				6				4				
授業科目以外の学修	指導教員による研究指導等		指導教員による研究指導、学会発表等		指導教員による研究指導、学会発表等		指導教員による研究指導、学会発表等		指導教員による研究指導、学会発表等		指導教員による研究指導、学会発表等		

※数字は単位数を表す。

(19) 現代文化学サブプログラム（後期課程）

現代文化学サブプログラム（後期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群又は科目名等	条件	修得単位数
専門科目	「現代文化学論文演習IA～IIIB」	必修	6
		選択必修	2
		修了単位数	8

（修了要件）

・3 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 8 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については 1 年（修士課程早期修了者等にあっては当該課程における在学期間を含めて 3 年）以上在学すれば足りるものとする。

(1)「現代文化学論文演習 IA～IIIB」6 単位

(2) 専門科目から 2 単位

(3) 専門科目には他サブプログラムの授業科目を含めることができる。

・人文社会科学研究群が行う「研究倫理等についてのガイダンス」を受講することを修了要件とする。

・e-learning（eL-CoRE または eAPRIN〔旧 CITI Japan〕）での受講修了書を博士論文予備審査申請の際に提出することを修了要件とする。

（注）

(1) 研究群共通科目または大学院共通科目（情報伝達力・コミュニケーション力養成科目群）から1単位を履修することを推奨する。

(2) 教育上有益と認められる場合には人文学学位プログラムが定める範囲において、他の学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

以下は、現代文化学サブプログラム（後期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				3年次				修得単位数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目	テクニカルコミュニケーション	1											1
専門科目	現代文化学論文演習IA	1	現代文化学論文演習IB 博士論文プロポーザル演習I	1 1	現代文化学論文演習IIA	1	現代文化学論文演習IIB 博士論文プロポーザル演習II	1 1	現代文化学論文演習IIIA	1	現代文化学論文演習IIIB	1	8
修得単位数	2		2		1		2		1		1		9
	4				3				2				
授業科目以外の学修	学会等での発表、主指導・副指導教員等からの研究指導、博士論文執筆		学会等での発表、主指導・副指導教員等からの研究指導、博士論文執筆		学会発表・学術誌への論文投稿等・博士論文中間発表会		学会発表・学術誌への論文投稿等		学会発表・学術誌への論文投稿等		学会発表・学術誌への論文投稿等		

※数字は単位数を表す。　※人文社会科学のためのインターンシップ(1)(*博士前期課程開設科目／基礎科目(研究群共通))の履修を推奨

(20) 英語教育学サブプログラム（後期課程）

英語教育学サブプログラム（後期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群又は科目名等	条件	修得単位数
専門科目	「英語教育学特別論文演習IA～IIIB」	必修	6
		修了単位数	6

（修了要件）

・3 年以上在学し、修了要件として下に定める必要な授業科目の履修により 6 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については 1 年（修士課程早期修了者等にあっては当該課程における在学期間を含めて 3 年）以上在学すれば足りるものとする。

(1)「英語教育学特別論文演習 IA～IIIB」6 単位

・人文社会科学研究群が行う「研究倫理等についてのガイダンス」を受講することを修了要件とする。

・e-learning（eL-CoRE または eAPRIN〔旧 CITI Japan〕）での受講修了書を博士論文予備審査申請の際に提出することを修了要件とする。

（注）研究群共通科目、大学院共通科目から1単位を履修することを推奨する。

以下は、英語教育学サブプログラム（後期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				3年次				単位修得数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目	英語発表	1											1
専門科目	英語教育学特別論文演習ⅠA	1	英語教育学特別論文演習ⅠB	1	英語教育学特別論文演習ⅡA	1	英語教育学特別論文演習ⅡB	1	英語教育学特別論文演習ⅢA	1	英語教育学特別論文演習ⅢB	1	6
修得単位数	2		1		1		1		1		1		7
	3				2				2				
授業科目以外の学修	学会参加・発表・INFOSS情報倫理受講・FD研修参加・TA/TF研修・非常勤実習		学会誌・学術誌論文投稿・TA/TF研修・非常勤実習・海外研修・外国語外部試験		博士論文構想発表会/学会参加・発表・TA/TF研修・非常勤実習・海外研修・外国語外部試験		学会誌・学術誌論文投稿・TA/TF研修・非常勤実習・海外研修・外国語外部試験		博士論文概要発表会、博士予備審査論文資格審査・TA/TF研修・非常勤実習・外国語外部試験		博士論文公開発表会・博士論文審査並びに最終試験/学会誌・学術誌論文投稿・TA/TF研修・非常勤実習		

※数字は単位数を表す。

(21) 国際公共政策学位プログラム（後期課程）

国際公共政策学位プログラム（後期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群等	条件又は科目名等	修得単位数
専門科目		特別演習科目（選択必修）	4～
		「国際公共政策プロジェクト演習A」および 「国際公共政策プロジェクト演習B」（必修）	6
		修了単位数	10

（修了要件）

・3 年以上在学し、上表の履修方法により、10 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

・人文社会科学研究群が行う「研究倫理等についてのガイダンス」を受講することを修了要件とする。

・e-learning（eL-CoRE または eAPRIN〔旧 CITI Japan〕）での受講修了書を博士論文予備審査申請の際に提出することを修了要件とする。

（注）

・研究群共通科目、大学院共通科目から 1 単位を履修することを推奨する。

・教育上有益と認められる場合には、4 単位を上限に、他の学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

以下は、国際公共政策学位プログラム（後期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				3年次				修得単位数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目			人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える	1									1
専門科目	政治学特別演習AI	1	政治学特別演習AII	1	政治学特別演習BI	1	政治学特別演習BII	1	国際公共政策プロジェクト演習A	3	国際公共政策プロジェクト演習B	3	14
	国際政治理論特別演習AI	1	国際政治理論特別演習AII	1	国際政治理論特別演習BI	1	国際政治理論特別演習BII	1					
修得単位数	2		3		2		2		3		3		15
	5				4				6				
授業科目以外の学修	指導教員による研究指導等		指導教員による研究指導、フィールド調査、研究発表会における発表等		指導教員による研究指導、フィールド調査、研究発表会における発表等		指導教員による研究指導、フィールド調査、研究発表会における発表等		指導教員による研究指導、フィールド調査、学会発表等		指導教員による研究指導、学会発表等		

※数字は単位数を表す。

(22) 国際日本研究学位プログラム（後期課程）

国際日本研究学位プログラム（後期課程）の履修方法・修了要件は以下のとおりです。

科目区分	科目群等	条件又は科目名等	修得単位数
専門科目	専門科目	必ず8単位以上を修得する。 ・1年次に「プロジェクト演習3A」「プロジェクト演習3B」のいずれか1単位を必ず修得する。 ・2年次に「プロジェクト演習4A」「プロジェクト演習4B」のいずれか1単位を必ず修得する。	8～
その他		・後期から本研究群に入学した者のみ、前期課程科目である「研究法入門」または「Academic Writing and Research Ethics」のいずれか1単位を必ず修得する。 ・上記に該当しない者は、本研究群前期課程在学中に未修得の大学院共通科目、「人文社会科学のためのグラントライティング入門」、「人文社会科学のためのインターンシップ」(1)(2)のいずれかから1単位以上を修得するか、もしくは、専門科目から1単位以上を修得することによって充足する。	1～
		修了単位数	9

（修了要件）

・3 年以上在学し、上記に定める修了要件として必要な授業科目の履修により所定の 9 単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については 1 年（修士課程早期修了者等にあっては当該課程における在学期間を含めて 3 年）以上在学すれば足りるものとする。

・人文社会科学研究群が行う「研究倫理等についてのガイダンス」を受講することを修了要件とする。

・e-learning（eL-CoRE または eAPRIN〔旧 CITI Japan〕）での受講修了書を博士論文予備審査申請の際に提出することを修了要件とする。

（注）

・研究群共通科目、大学院共通科目から少なくとも 1 単位を履修することを推奨する。

・教育上有益と認められる場合は、学位プログラム教育会議の承認を得て、4 単位を上限として、他学位プログラム等の授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

以下は、国際日本研究学位プログラム（後期課程）の履修モデルです。

年次・学期 / 科目区分	1年次				2年次				3年次				修得単位数
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
大学院共通科目			人文知コミュニケーション:人文社会科学と自然科学の壁を超える	1									1
専門科目	社会情報論1	1	プロジェクト演習3A	1	社会情報論 2	1	プロジェクト演習4A	1					8
	メディア思想と日本社会3	1	Informatics and Society 1	1			Informatics and Society 2	1					
	情報学特別演習1A	1											
修得単位数	3		3		1		2		0		0		9
	6				3				0				
授業科目以外の学修	博士論文準備		博士論文準備		博士論文執筆		博士論文執筆		博士論文執筆		博士論文執筆		

※数字は単位数を表す。

(23) 研究群の英語プログラム（国際公共政策学位プログラム）

（Special Programs in English）

人文社会科学研究群**国際公共政策学位プログラム（博士前期課程）**では、**留学生等に対応した英語プログラム**を開設しています。

経済・公共政策プログラム

Program in Economic and Public Policy (PEPP)

PEPP (Economic Policy and Public Policy Courses for WB/ADB Scholarship Fellows)

Established in 1995, the program is designed for young professionals in developing and transition economies. Currently, we offer a Course in Economic Policy, taught in English leading to a Master of Arts in International Public Policy. The course, starting in October every year, consists of four semesters lasting 2years. Scholars selected for the program are supported by the World Bank Graduate Scholarship Program (JJ / WBGSP) or the Asian Development Bank-Japan Scholarship Program (ADB-JSP).

PEPP (Course in Economic Policy for MEXT Scholarship Fellows and other students including self-funded students)

PEPP's Course in Economic Policy is a high-quality English-language economics program open to all students (including Japanese) regardless of nationality and funding source. The curriculum for this course is identical to the Course in Economic Policy described in the PEPP (WB/ADB Scholarship Fellows) Course. This course is also suitable for Japanese Government (MEXT) Scholarship candidates who have already passed the Embassy Recommendation procedures for the MEXT scholarship and current MEXT Scholarship students are particularly encouraged to apply for this track.

JDS 公共政策特別プログラム

Special Program in Public Policy (JDS)

This program aims to contribute to the betterment of young public officials from Asian countries in the field of public policy. The program is designed for recipients of the "Japanese Grant Aid for Human Resource Development Scholarship (JDS)" offered by the Japan International Cooperation Agency (JICA) and the "Japan Human Resource Development Scholarship for Chinese Young Leaders (JDS China)" offered by the Ministry of Foreign Affairs. The program starts in the fall semester (October) and is designed to enable students to obtain a Master of Arts in International Public Policy in 18 months.

中央アジア・日本人材育成プロジェクト

Special Program for Central Asian Countries (SPCEA)

With the independence of the former Soviet constituencies in Central Asia (CA), and with the establishment of the Commonwealth of Independent States in 1991, there has been a growing interest towards Asian studies in this region. At the same time, there has been a growing interest towards Japanese studies, Educational and Cultural Policy, and International Relations and Public Policy in these countries with increasing number of enrolling students into specialized departments.

アフリカの若者のための公共政策イニシアティブ

African Youth Initiative in Public Policy (AYIPP)

The objective of the AYIPP master's degree program is to support young personnel who have the potential to contribute to the development of Africa.

The program offers opportunities for young African men and women to study subjects in public policy, leading to a MA degree in International Public Policy.

Please note that applicants from Africa can choose from two programs both taught completely in English: AYIPP focuses on a wide range of public policy-related subjects with both quantitative and qualitative methods: whereas PEPP (Program in Economic and Public Policy) focuses more on quantitative analysis in economics. In addition to the academic activities as international students at the university, the program offers an opportunity to experience internships at Japanese enterprises.

6. 修士論文・博士論文について

(1) 研究不正と研究倫理

筑波大学では、2011 年、過去に授与した修士の学位に不正行為があったことが判明し、その者に対して「学位及び課程修了の取消し並びに学位記の返還」を決定しました。その際、再発防止策として、①不正が判明した場合には学位を取り消すなどの処分があることを周知徹底すること、②論文盗用をチェックするソフトウェア（iThenticate）を導入すること、③研究倫理に関する教育を強化すること、④複数教員による論文指導及び論文審査の外部委員の参画などが取り決められました。

しかしそれにもかかわらず、学位論文審査の段階で剽窃が判明する事案などが発生していることから、博士論文や修士論文を提出する際には、研究不正行為（捏造、改ざん、盗用等）を行っていないという「論文公正に関する確認書」を提出することになっています。

博士前期課程の大学院生には、入学時のガイダンスを行うとともに、研究指導の際に専門分野の特性を踏まえた研究倫理教育を行うこととされています。また大学院共通科目の「研究倫理」の受講なども推奨されています。

博士後期課程の大学院生には、進級時に研究指導を行うこと、eL-CoRE または eAPRIN〔旧 CITI Japan〕という研究倫理 e-learning を課すこと、博士論文提出時に誓約書を提出することなどが求められています。人文社会科学研究群でも、**博士論文を提出する際には、研究倫理 e-learning の受講を義務づけるとともに、「論文公正に関する確認書」を提出してもらいます**。

(2) 博士論文のインターネット公表

○ **博士論文のインターネット公表は、学位規則で定められた義務です。**

平成 25 年 3 月、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）の一部が改正され、平成 25 年 4 月 1 日以降、**博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から 1 年以内に、博士論文の全文を、学位を授与した大学の機関リポジトリを通じてインターネット公表**することになりました。博士論文のインターネット公表は、**大学における教育研究の成果である博士論文の質を相互に保証し合う仕組み**として実施されるものです。

これを受けて筑波大学学位規程も改正されました。人文社会科学研究群で博士の学位を取得する人も、博士論文の全文をインターネット公表しなければなりません。**博士論文の提出時には、本審査だけでなく、予備審査でも、「インターネット公表に関する申出書」を提出してください**。

ただし博士論文の全文をインターネット公表することに支障がある「やむを得ない事由」があると大学によって承認された場合には、その事由が解消されるまでの間、博士論文の全文に代えて「論文の要約」をインターネットによって公表することになります。

○ 提出された論文は学術情報データベース「つくばリポジトリ」に登録します。

筑波大学では、平成 25 年度以降に博士の学位を取得した人の博士論文のインターネットによる公表は、「つくばリポジトリ（https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/）」によって行うこととしています。

公表時期は、提出された論文に不備や確認の遅れがなければ、下記が目安となります。公表準備が整えば、公表時期は早くなることがあります。（学位取得後に「やむを得ない事由」が生じた場合、「論文の要約」による公表が許可されるまでは全文公表の差し止めを行うことはできません。）

・**4 月～9 月**に学位授与された博士論文：当該年度 **11～12 月までに**公表
・**10 月～3 月**に学位授与された博士論文：次年度 **7～8 月までに**公表
※公表が完了した際はお知らせします。

○ 博士論文の全文のインターネット公表に支障がある「やむを得ない事由」とは

博士論文の全文のインターネット公表に支障がある「やむを得ない事由」がある場合とは、客観的に見てやむを得ない特別な理由があると大学が承認した場合をいい、例えば、①著作権保護、個人情報保護等の理由により、博士の学位を授与された日から 1 年を超えてインターネットの利用により公表できない内容を含む場合、②出版刊行、多重公表（インターネット公表した内容に基づく論文の投稿）を禁止する学術ジャーナルへの掲載等の関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が、博士の学位を授与された日から 1 年を超えて生じる場合です。**インターネット公表に支障があると考える場合には、それを客観的に証明する資料を、「インターネット公表に関する申出書」に添えて、予備審査を受ける学位プログラム（サブプログラム）の事務室に提出**してください。

「やむを得ない事由」が解消されるまでの間、博士論文の全文に代えて「論文の要約」を公表することになりますが、その間も、すべての博士論文は、国立国会図書館および筑波大学附属中央図書館での閲覧に供されます。したがって**博士論文の全文のインターネット公表に支障がある「やむを得ない事由」があると大学によって承認された場合でも、博士論文の全文を提出しなければなりません**。

なお、すでにインターネット公表を行っている論文について、後日、インターネット公表することに支障がある事由が生じたら、予備審査を行ったときの学位（サブ）プログラム事務室に申し出てください。それが「やむを得ない事由」であると大学によって承認された後、全文に代えて「論文の要約」が公表されることになります。

○ **参考** WEB サイト：著作権処理、論文公表までの流れ、および論文公開時期等

つくばリポジトリ Q&A https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/?page_id=38

博士論文インターネット公表の基礎知識（筑波大学附属図書館 WEB サイト内）

https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/guidance-haifu

学協会著作権ポリシーデーターベース（SCPJ）

http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/index/

○ **博士論文の提出について**

博士論文の全文のインターネット公表に支障がない人は、**博士論文の最終試験から 2 週間後まで**を目途に、大学から配布される CD に、下記に留意して**博士論文の全文（表紙を含みます）を PDF 形式で保存**し、学位（サブ）プログラム事務室に提出してください。

博士論文の全文のインターネット公表に支障があると申し出て承認された人は、博士論文の最終試験から 2 週間後までを目途に、大学から配布される CD に、下記に留意して**学位論文の博士論文の全文（表紙を含みます）と「論文の要約」をそれぞれ PDF 形式で保存**し、学位（サブ）プログラム事務室に提出してください。

「論文の要約」は、博士論文の全文を公表できない理由を添え、可能なかぎり学位論文の多くの部分によって作成してください。**博士論文とともに提出する「論文概要」では不十分**です。

- 著作権保護、個人情報保護等でインターネット公表が不適当な場合には、個々の論文の内容に適した形で該当箇所をマスキングしてください。**博士論文は公表することを前提に、著作権保護、個人情報保護等の観点を踏まえて作成することが望まれます**。
- **出版刊行や多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載が理由の場合には、掲載された部分以外は可能なかぎり公表**し、掲載された部分については、**掲載雑誌名、巻号、頁数等の書誌事項を要約に記載**することで、インターネット閲覧者の便宜を図るなどの配慮が必要です。学位取得が確定したら、**できるだけ多重公表を禁止する学術ジャーナルへの投稿は避けてください**。
- 博士論文全体を書籍として出版することが理由の場合には、**論文の要約を日本語 1 万 2,000 字以上または英語 5,000 words 以上**で作成し、予定している書籍

情報を記載することで、インターネット閲覧者の便宜を図るなどの配慮が必要です。

○PDF 作成時の留意点

PDF の形式は、PDF/A（ISO 19005）を推奨。

「フォントを埋め込み」を行う。

「暗号化」「パスワードの設定」「印刷制限」等の設定を解除する。

○CD 提出時の留意点

CD 表面およびケースに学籍番号、所属学位プログラム名、（サブプログラム名）、氏名、論文題目を記載する。